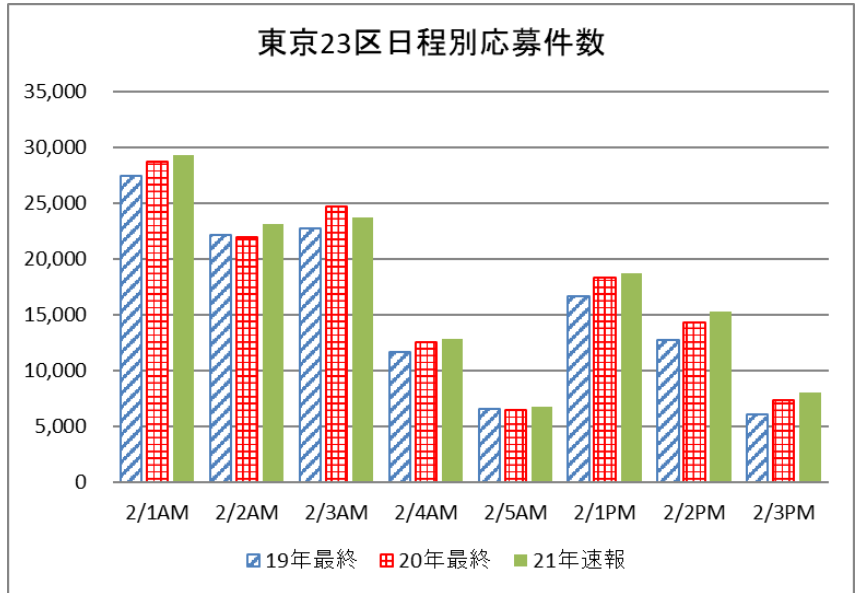


東京23区私国立中入試概況

1. 概況 コロナ禍でも中学受験は拡大、東京集中は変わらず

東京23区の公立の小6児童数は義務教育学校も含めて約63,100名で昨年より約1,100名増えています。東京23区内の中学受験の応募総数は、私立、国立、公立一貫校の合計で、3月5日現在、1月までの帰国入試を含めて約150,800件です。昨年の最終が145,000件弱でしたから、昨年に続いて増加が続きました。入試結果未公表の学校や、コロナ禍対応の追加入試、二次募集を行う学校もあり、最終的にはこれらの応募者数が上乗せされます。実際の受験者数も約109,600名と、昨年最終より約3%増加、合格者数は約39,200名



でした。この数字には、コース制実施校での入りやすいコースのスライド合格や、特待入試での一般合格が含まれていない学校もありますから、「入学できる」合格者はもっと多くなりますが、同じ基準で昨年の最終と比較すると約900名、約2%増えています。昨年は実受験者数が約9%増加、合格者数の増加率が約3%で、合格者数の増加率が実受験者数ほど増えず、平均倍率アップによる難化傾向の入試でしたが、今年の実受験者数の増加に対応した合格者数の増加です。

右上のグラフは東京23区内の2月1日以降の中学受験の応募者数を日程別に合計し、一昨年、昨年と比較したものです。今年速報値で、私立、国立、公立一貫校の合計ですが、都内で実施される地方寮制校の入試は含んでいません。応募総数では2月1日午前が最多で、昨年よりも2.1%、約600件増加しています。1日午前は多くの受験生が第一志望校に挑戦する日ですから、23区内の中学受験の拡大を示す応募状況です。2番目は3日午前、3番目が2日午前ですが、グラフでわかるように3日午前と2日午前は僅差で、同じといっても差し支えありません。昨年は3日午前と2日午前の差が明確でしたが、今年は3日午前の応募者数が減って2日午前が増えたため、グラフのように変化しています。3日午前の減少は、一つには難化傾向に対

する敬遠で公立一貫の7校の応募者数が減ったためですが、私立の応募者数も減っていて、遅い日程まで挑戦を続けようとする受験生が減ったことも理由です。4日午前、5日午前も少し増えていますが、もともと3日までほどの応募者数ではありません。

午後入試は、グラフのように1日午後、2日午後、3日午後とも応募者数が増えています。今年の増加は、獨協が午後入試を新設したり、新たにスタートした広尾学園小石川が1日午前以外はすべて午後入試だったことで多くの受験生を集めました。同時に遅い日程まで挑戦を続けるのではなく、短期決戦の早期決定志向の強まりも増加の理由です。実際、グラフのように1日午後や2日午後、4日午前や5日午前より多くの応募者があり、特に1日、2日は午前、午後と連続して受験することが23区内では定番になっているといえます。

次に、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別の上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外し

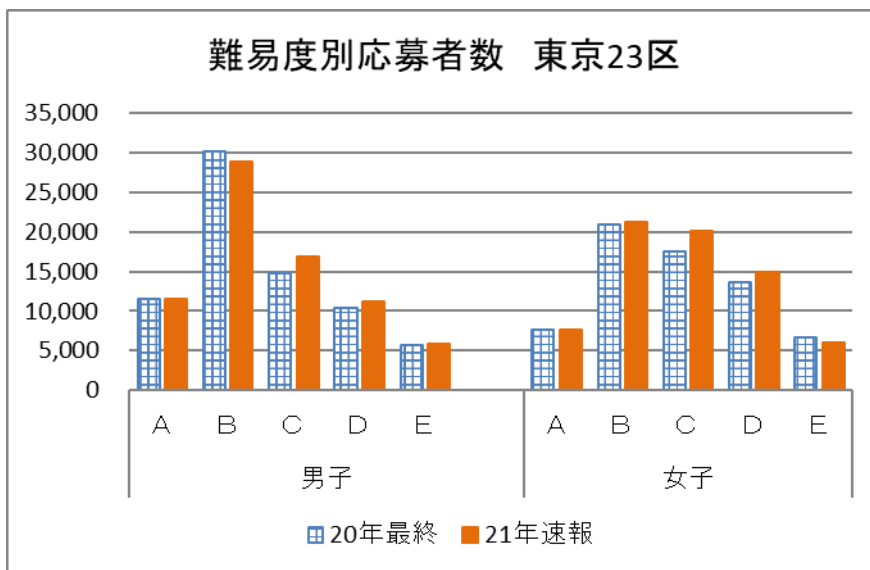
ています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年の用予想難易度、今年は今用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年と今年とでは異なる場合があります。今年のグルーピングは16ページに一覧の形で掲載しました。

男子はBグループの応募者が一番多く、応募総数の3分の1強を占めています。昨年は30,000名を超えていましたが減少、Cグループが増えていて、昨年は応募総数の2割でしたが、約23%と増えています。最難関校のAグループはほとんど変化がありません。昨年だったらBグループを考えていた受験生が、Cグループに流れたわけで、受験生の安全志向が表れています。昨年はBグループの増加が大きく、「せっかく受験するならAグループは無理でも、せめてBグループの学校に」という意識が強く表れていましたが、今年はこの志向が減っています。

女子はもともと男子ほどBグループ集中ではありませんでしたが、それでも昨年はBグループが最多でした。今年もBグループは少し増えていますが、Cグループが増えたため僅差になっています。B・Cグループとも全体の約3割です。女子はDグループも増えていて、約2割を占めています。グラフを見ると、CグループやDグループの増加は、男子のCグループと比べればあまり大きなものではないと感じてしまうかもしれませんが、多摩地区や他県のグラフとは目盛りの間隔が違います。Cグループは約2,600名、Dグループは約1,200名増えています。最少のEグループは少し減りました。

続いて各校の様子を簡単にご紹介します。都立の中高一貫各校と区立九段中等は公立一貫校の資料をご覧ください。

☆



2. 男子校

<難関校～中上位校>

まず男子御三家から。開成の応募者数は安定傾向で、今年も昨年並みでしたが、実際の受験者数は減っています。出願しながら受験を断念した受験生が約130名発生しました。今年は挑戦志向が弱く、渋谷幕張などに先に合格した受験生が断念したのでは、といったことが考えられますが、他にも理由があるのかもしれませんが、合格者数は昨年とほぼ同じで、合格最低点は若干上がりましたが昨年並みといってよいでしょう。今年も高難度の厳しい入試でした。麻布の応募者数は、一昨年は前年並み、昨年は増えていて、今年は減っています。実際の受験者数も減っていて、合格者数は昨年並みで実質倍率は緩和していますが、合格最低点は昨年とほぼ同じで難度に変化は見られません。今年も高難度の入試でした。武蔵の応募者数は、一昨年、昨年と少しずつ増えていましたが、今年はやや減っています。今年安全志向が強かった影響でしょう。合格最低点は昨年並みで、今年も高難度の入試でした。

御三家と並ぶ難関校の駒場東邦は、一昨年は応募者数がやや増えていて、昨年、今年と増加が続き、人気が上がっています。実際の受験者数も増えましたが、合格者は増えていません。ただ、合格最低点は昨年並みで、出題内容との関係はありますが、あまり難化はしていないかもしれません。国立の筑波大駒場は、一昨年は応募者数が増加、昨年は減って、今年も昨年並みです。実際の受験者数、合格者数も昨年並みです。合格最低点も昨年並みで、例年並みの高難度の入試でした。

海城は、各回次合計の応募者数は一昨年が増加、昨年やや増加していましたが、今年は昨年並みです。回次ごとでも昨年とあまり変わりません。実際の受験者数は欠席が減って少し増えましたが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は2回がやや上がっています。出題内容との関係はありますが、やや難化したかもしれません。帰国生入試と1回の難度は昨年並みでしょう。早稲田は、一昨年は2月1日の1回、3日の2回とも応募者数が減って、昨年は増加、今年は減少と隔年的に変化しています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年より増えていて、2回は昨年とあまり変わらない合格最低点でしたが、1回は少し下がっています。出題内容との関係はありますが、1回はやや入りやすくなったかもしれません。2回は昨年並みの難度でしょう。

暁星は長い間2月3日に1回だけの入試でしたが、昨年から一般入試と同時に進んでいた帰国生入試を12月に独立して実施、一般入試も2月2日午前の1回と3日午後の2回の複数回実施としました。この結果、各回次合計の応募者数は一昨年の2倍近くに増えています。今年はその人気落ち着いたようで、1・2回とも応募者数が減っています。実際の受験者数も減りましたが、1・2回とも合格者数を増やしています。1回は合格最低点が上がっていますが、出題内容の影響もあるようで、実質倍率は下がっていますから、難度は昨年並みと考えた方がよさそうです。2回の合格最低点は昨年並みで、昨年は20倍を超える実質倍率でしたが今年は大きく下がったものの、それでも6倍ですから、難度はあまり変わっていないと考えられます。

芝は、一昨年、昨年と、2月1日の1回、4日の2回とも応募者数が減っていましたが、今年は1回が昨年並み、2回は今年も少し減っています。実際の受験者数も同傾向で、合格者数は1・2回とも昨年並みでした。合格最低点は1・2回とも昨年並みで、難度に変化は見られません。2回の応募者数減少は遅い日程まで挑戦する受験生が減っている影響でしょう。

巣鴨は2018年、一昨年と入試を増設して人気上がり、応募者数の増加が続きましたが、今年は各回次とも減っています。昨年まで難化が続いていた反動でしょう。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、合格最低点は各回次とも上昇した昨年の水準が続いています。受験生が絞られた入試結果でした。城北は、一昨年は2月1日の1回が前年並みの応募者数、2日の2回が減って、4日の3回はやや増えていて、昨年

は各回次とも増えていました。今年は1回が昨年と同数、2回は減って、3回は少し増えています。実際の受験者数は合計すると昨年並みで、合格者数は昨年より減っています。合格最低点は各回次とも昨年より少し下がっていますが、合格者数を絞っているところを見ると、出題内容の影響でしょう。あまり難度は変化していないようです。

本郷は2021年度からの高校募集を停止、完全中高一貫の体制になっています。一昨年は各回次の合計の応募者数が大きく増加、昨年は減っていて、今年もやや減りました。昨年は2月5日の3回が減っていましたが、今年は1日の1回が増加、2日の2回と3回が少し減っています。併願の受験生が減少し、志望順位が高い受験生が増えています。実際の受験者数も少し減りましたが、合格者数は昨年並みで、合格最低点は1回が上昇、2・3回は昨年並みです。1回は昨年難化傾向でしたが、今年もさらに少し難化したようです。

世田谷学園は理数コースを新設し、2コース制になりました。在来コースは本科コースとなりました。理数と本科は、入試問題は同じですが2月1日午後の算数特選以外は理科と算数の得点を2倍で合否判定を行う傾斜配点方式です。一昨年は算数特選を新設、各回次合計の応募者数は大きく増えて、昨年、今年と増加が続いています。増加の中心は算数特選と2日午前の2次で、併願受験生が中心です。実際の受験者数も増えていて、在来コースの本科は合格者数を昨年より絞っています。2次と4日の3回は合格最低点が上がっていてやや難化したようです。1日午前の1次は昨年並みです。算数特選は合格最低点下がっていますが、昨年の水準が特待で、今年の理数に相当しますから、当然の結果です。理数の合格最低点は本科とは満点が異なるので単純比較はできませんが、得点率で見ると本科より15~20%高く、1ランク上の難度になりました。

攻玉社はもともと隔年的な応募者数の変化が見られた学校で、各回次合計の応募者数は2018年には増えていましたが一昨年は減少、昨年は小幅の増加、今年は再び減りました。世田谷学園に流れた受験生もいるようです。実際の受験者数も減りましたが、合格者数は昨年並みで、合格最低点は1月の国際学級入試と2月1日の1回が昨年並み、2日の2回と5日の特別選抜は少し下がって、昨年よりやや入りやすくなったのかもしれません。

東京都市大付属は、各回次合計の応募者数では都内

男子校のトップです。Ⅰ類、Ⅱ類の類型制で、一昨年は合計で応募者数が増加、昨年はわずかですが減少、今年も少し減っています。減少しても都内男子校のトップであることは変わりません。実際の受験者数も少し減っていますが、今年は合格者数が増えています。合格最低点は2月2日午前の2回、グローバル、4日の3回のⅠ類は少し下がっています。Ⅱ類は昨年並み、1日午後の1回はⅠ・Ⅱ類とも昨年並み、6日午前の4回はⅠ・Ⅱ類とも少し上がりました。出題内容との関係はありますが、Ⅰ類の2回、グローバル、3回はやや入りやすくなったかもしれません。Ⅱ類と、他の回次はⅠ・Ⅱ類とも難度は昨年並みでしょう。

内部進学率が高い大学附属校では、早大学院はほぼ同じ応募者数が続いていて、今年はやや減りましたが小幅ですから安定した人気が続いています。実際の受験者数もやや減っていますが、合格者数は昨年並みです。難度もほとんど変わっていないようです。立教池袋も附属カラーが強い学校です。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増えていましたが、今年2月2日の1回が減りました。帰国生入試と5日の2回は昨年並みです。実際の受験者数も同じ傾向ですが、合格者数は受験生が減った1回も昨年並みでした。合格最低点は1回も含めて昨年並みで、補欠も出していますから難度に変化は見られません。

学習院の応募者数は、一昨年は帰国生入試や2月2日の1回が小幅ながら増加、3日の2回は少し減っていて、昨年は帰国生入試がやや減ったものの、1・2回とも増えていました。今年2回は少し減っていますが、帰国生入試と1回は昨年並みです。実際の受験者数も同じ変化でしたが、合格者数は帰国生入試と2回が昨年並み、1回は少し絞っています。そのため、1回の合格最低点は少し上がって少々難化した結果でした。2回は昨年並みです。明大中野の2月2日の1回は一昨年まで応募者数の増加が続き、昨年は少し減りましたが今年再び少し増えています。4日の2回も一昨年は増加、昨年は減少、今年増加しました。実際の受験者数、合格者数は1回が昨年並み、2回は少し増えています。本稿執筆時点で合格最低点はまだ公表されていませんが、2回は補欠が出ていることもあって、2回とも難度に変化はなさそうです。

<中上位校～中堅前後の各校>

共学化した芝浦工大附属は男女校をご覧ください。獨協は大学附属ですが、附属校カラーはほとんどあり

ません。今年2月1日午後に初めての午後入試を新設しました。昨年まで回次ごとでは応募者数に小幅の変化があっても合計はあまり変化が見られませんでした。午後入試の新設で1日午前の1回・2日午前の3回・4日午前の4回の既存の入試も応募者数が増加、合計では大幅に増えました。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、1・2回は合格最低点が上昇、難化しています。新設の午後入試は科目が2科ですが、得点率は1・2回の中間的な水準でした。3回は昨年並みで、この回だけは昨年並みの難度だったようです。

日大豊山は附属校カラーの強い学校で、一昨年は各回次合計の応募者数が前年並みでしたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。昨年は特に2月2日午後の2回と3日午後の4回が大幅な増加でしたが、今年全回次かなり増えました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並み、厳密には若干減らしています。合格最低点は1日午前の1回と2回が昨年並みだったものの、3日午前の3回と4回はやや上がっていて、少し難化したかもしれません。

純粋な進学校では、成城は、各回次合計の応募者数が一昨年は少し減少、昨年は増加、今年は減少と、隔年的な変化です。昨年は2月3日の2回、5日の3回が大きく増えていましたが、今年3回が大きく減っていて、遅い日程まで挑戦を続ける受験生が減っていることがわかります。実際の受験者数も減っていますが、合格者数はやや増えていて、3回は合格最低点が下がっています。出題内容との関係はありますが、少し入りやすくなったかもしれません。1・2回は昨年並みです。高輪は各回次合計の応募者数が一昨年は減りましたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数はやや絞っています。合格最低点は2月4日午前のCが昨年並みだったものの、他の回次は上がっています。出題内容との関係はありますが、少し難化したようです。

佼成学園はグローバルコースを新設、奨学生2回をグローバル奨学生に変更して別途5日に奨学生入試を新設、帰国生入試も回数を増やしました。各回次合計の応募者数は一昨年前年並み、昨年は増加、今年昨年並みです。第一志望の受験生が多い2月1日午前の1回と5日に動いた奨学生2回は応募者数の増加が目立ちましたが、1日午後の奨学生1回や2日午後のグローバル奨学生は応募者数の減少が目立ちます。他校併願受験生が少し減っているようです。2月2日午

前の2回と適性検査型は合格最低点が上がっていますが出題内容との関係でしょう。他の回次はあまり変わっていませんから、全体的にはあまり難度に変化はなかったようです。

特選・中高一貫の2コース制の京華は、一昨年、昨年と各回次合計の応募者数が増加、今年は昨年以上に大きく増えました。昨年は800名台でしたが、今年は1,000名を超えました。2月2日午後の特選2回がやや減ったものの、他の回次は増えていて、志望順位が高い受験生、併願前提の受験生ともに増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数はやや増えただけで、不合格者数が増えています。2月1日午前午後、2日午前午後の入試の合格最低点は昨年並みですが、3日の一貫入試は上がっていて、少し難化しています。足立学園は、各回次合計の応募者数が一昨年は増加したものの、昨年、今年と、少し減っています。実際の受験者数も少し減っていますが、合格者数はやや増えています。昨年から2月1日午前の1回は2科4科選択入試から面接重視で基礎2科の「志入試」に切り替えています。こちらは昨年並みの応募者数でした。2日午前の2回の2科、2日午後の特選3回、3日午前の3回の4科は合格最低点が下がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次は昨年並みで、難度は変わっていないようです。

聖学院はレゴを使ったものづくり思考力入試などで有名です。一昨年は各回次合計の応募者数が増加、昨年は一昨年並みで、今年は再び増加して1,000名を超えました。段階的に人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は各回次で少し上下の変動が見られますが、出題内容との関係でしょう。全体的には昨年とあまり難度は変わっていないようです。日本学園は小規模な入試の学校で、今年は適性検査型入試で検査Ⅲの選択を取りやめました。各回次合計の応募者数は増えていますが、小規模な入試のままです。難度面は昨年とあまり変わっていないようです。

3. 女子校

<難関校～中上位校>

女子御三家の桜蔭は、一昨年は応募者数が前年並み、昨年、今年と少しずつ増えています。合格最低点は未公表ですが、今年も補欠を出していて、難度に変化はなさそうです。昨年は桜蔭に合格しても他校(渋谷幕張などが多いようです)に流れるケースが目立ち、例年よ

り繰り上げのペースが早くなっていましたが、今年は本稿執筆段階では目立った動きは見られません。女子学院は、一昨年は応募者数がやや増えていて、昨年は一昨年並み、今年は少し減っていますが、変動幅が小さいので安定した人気といえます。やはり合格最低点は未公表ですが、もともと高水準の難度は変わっていないでしょう。御三家のもう一校、雙葉は、一昨年、昨年と応募者数が増えていましたが、今年は少し減っていて、実際の受験者数も減りました。合格者数は昨年並みですから実質倍率が下がっていますが、合格最低点は上がっています。出題内容の影響はありますが、少し難化しているようで、今年に応募者数の減少は受験生が絞られたためだったようです。

御三家に続く豊島岡女子は、2022年度からの高校募集停止、完全一貫校への移行の予定です。各回次合計の応募者数は一昨年はやや減り、昨年は少し増えて、今年はまたやや減っていますが、横ばいといえるでしょう。実際の受験者数、合格者数はほぼ昨年並みです。補欠を出していて、合格最低点も各回次とも昨年並みですから、難度に変化は見られません。白百合学園は一昨年、昨年と帰国生入試と一般入試の合計の応募者数が増えていましたが、今年は昨年並み、厳密には微減です。実際の受験者数は昨年とほぼ同じで、合格者数は一般入試が少し増えています。合格最低点は帰国生入試が上昇していますが、出題内容の影響でしょう。一般入試は昨年並みで、難度面はあまり変わっていないようです。

鷗友学園は、一昨年は2月1日の1回、3日の2回とも応募者数が増加、昨年は1回が一昨年並み、2回はやや減りましたが、今年は2回とも増加しています。吉祥女子が3回入試から2回入試に変更して難化必至と言われていたために、こちらに流れた受験生もいたようです。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は若干絞っていて合格最低点は1回が上昇、2回は昨年並みでした。ただ、2回はかなり実質倍率が上がっていて、出題内容が少し得点しにくかった可能性もあり、2回とも難化したと捉えた方がよいでしょう。学習院女子は、曜日の関係で帰国生入試の日程が変更されています。各回次合計の応募者数は一昨年まで増加が続いていましたが、昨年、今年と少し減っています。昨年は2月1日のA、3日のBとも応募者数が減りましたが、今年はBが少し減りました。遅い日程まで挑戦しようとする受験生が減少傾向なのでしょう。合格最低点はA・Bとも昨年並みで、難度に変化は見られ

ません。

立教女学院は曜日の関係で帰国生入試の日程が変更になっています。一昨年は帰国生の応募者数がやや減ったものの、一般は増加、昨年は帰国・一般とも少し増えていて、今年は帰国が少し減ったものの、一般は昨年並み、厳密には微減でした。合格者数は今年も昨年並みで、帰国生はやや入りやすくなったかもしれませんが、一般は合格最低点が下がっていますが、出題内容との関係でしょう。難度としてはあまり変わっていないようです。東洋英和の各回次合計の応募者数は、一昨年は減少、昨年は増加、今年は少し減って隔年的な動きです。プロテスタント校で、一昨年は例年2月3日のBが日曜日に重なるため2日に移しましたが、昨年は戻っていて、一昨年から昨年の変化はこの点が影響していました。今年の減少は1日のAで、Bは減っていませんから、人気が少し落ち着いてきたようです。合格最低点はA・Bとも昨年並みで、難度は変化していません。

頌栄女子学院は曜日の関係で12月の帰国生入試を2日早めました。昨年まで各回次合計の応募者数は小幅ながら減少が続いていましたが、今年は少し増えています。増加の中心は2月5日の2回です。早い日程で不合格になった受験生が、ぜひとも出願したのでしょう。実際の受験者数と合格者数は昨年並みで、合格最低点は1日の1回がやや下がっていますが、出題内容の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。2回は昨年並みでした。普連土学園は、一昨年は入試の増設で各回次合計の応募者数は大きく増えましたが、昨年は減っていて、今年は2月4日が少し増えています。合計では昨年並みでした。実際の受験者数は昨年と同じ、合格者数は少し増やしています。2月1日午前は合格最低点が上が、午後の算数入試は下がっていますが、出題内容の影響でしょう。2日午後や4日は昨年並みで、難度面ではあまり変わっていないようです。

カトリックの光塩女子学院は、2月1日の1回に総合型を、2月2・4日の2・3回に4科の入試を実施しています。各回次合計の応募者数は一昨年は減っていて、昨年はやや増加、今年はやや減少と変動が小幅になってきました。第一志望者が多い1回が総合型になっている影響かもしれません。実際の受験者数もやや減りましたが、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化は見られません。大妻は曜日の関係で帰国生入試の日程が変更されています。一昨年は2月5日

に4回を新設、各回次合計の応募者数が大きく増えましたが、昨年は減っていて、今年はやや増えています。増加の中心は5日の4回ですから、早い日程で不合格になった受験生が、何としても大妻にと出願したケースが増えたのでしょう。合格最低点は3日の3回が昨年並み、他の回はやや下がっていますが、出題内容の関係でしょう。難度面はあまり変化がなかったようです。

共立女子は曜日の関係で帰国生入試の日程が変更になっています。昨年まで各回次合計の応募者数の増加が続いていましたが、今年は減りました。人気は一段落です。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は少し増えていて、合格最低点は帰国生入試と2月3日午後の合科入試が昨年並みで難度に変化は見られないものの、1日午前、2日午前は下がって少し入りやすくなったようです。3日午前のインタラクティブ入試は上がっていますが、出題内容の関係で、難度に変化はなさそうです。

<中上位校～中堅前後の各校>

立教系列校の香蘭女学校は、長い間2月1日だけしか入試を行っていませんでしたが、一昨年2日午後に2科の2回を新設し、応募者数は大きく増えました。昨年も1日午前の1回だけでなく2回もさらに応募者が増加しましたが、今年は1・2回とも減って、人気は一段落しました。実際の受験者数も減りましたが、合格者数は昨年とあまり変わっていません。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、少し入りやすくなったようです。東京女学館は一般学級・国際学級の2コース制です。各回次合計の応募者数は、一昨年前年並み、昨年は増加しましたが、今年は減少しています。一昨年よりも少なく、各回次とも減っていますので併願受験生が他校に流れたようです。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、合格者数の減少は小幅です。全体に実質倍率が緩和しました。合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、少し入りやすくなったようです。

富士見は、昨年初めての午後入試として2月2日午後に算数1科入試を新設、1日午前の1回、3日午前の3回は応募者数がやや減っていて、2日午前の2回は一昨年並みの応募者数でしたが、合計では応募者が増加していました。今年は算数1科入試、午前の3回の入試とも応募者が増えています。昨年は午後入試の受験生への浸透が今一つだったのが、今年は十分浸透して

人気になったのでしょうか。実際の受験者数も増えてきましたが、合格者数は少し減っています。算数1科入試は合格最低点が下がっていますが出題内容の関係でしょう。午前の3回は昨年並みの合格最低点で、難度に変化はなさそうです。

山脇学園は曜日の関係で11月の帰国生入試の日程を変更したほか、2月の一般入試でも帰国生の選考を実施、2日午前のBは午後に移しました。各回次合計の応募者数は、2018年は減りましたが、一昨年で以降増加が続いていて、今年は大きく増えました。午後に移したBだけでなく他の回次も増えています。実際の受験者数もかなり増えていますが、合格者数は少々増えただけで、実質倍率は上がっています。ただ、合格最低点は1日午後の国語1科入試が上がっているものの、4日のCはやや下がっていて、他の入試は昨年並みです。出題内容との関係もありますが、難化というよりもボーダーライン付近がかなり厳しくなった入試だったと考えられます。江戸川女子は国際コースを新設、帰国生入試と一般入試では2月2日午前に同コース対応の英語入試を新設しました。今までも高校に内部進学する段階で英語科が設置されていましたが、グローバル化対応を強化しようとする動きです。一昨年は各回次合計の応募者数が増えていて、昨年は一昨年並みでしたが、今年は減っています。コロナ禍の影響で新コース制の受験生への浸透が不十分だったのかもしれませんが、2月1日午後のAO入試は合格最低点が下がっていますが、出題内容の関係でしょう。難度は大きく変わっていないようです。他の回次は昨年並みの合格最低点で、難度は安定しています。

十文字も曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、得意1科目入試を2月3日午後から午前に移し、2教科の組み合わせも認めるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と少し減っていましたが、今年は増加に転じました。実際の受験者数や合格者数も少し増えています。合格最低点は得意1科目選択の算数が昨年より上がっていることと、2月1日午前の思考力型が下がっていることが目立ちますが、出題内容の関係でしょう。他の回次も少しずつ下がっています。やや入りやすくなっているのかもしれませんが。実践女子学園は帰国生入試を増設、午後入試の4科選択を取りやめ、2月1日・2日の午前に思考力入試を新設しました。2018年は各回次合計の応募者数が大きく増加したものの、一昨年、昨年と減っていましたが、今年は大きく増えました。各回次と

も増えていて、実際の受験者数も増えてきましたが、合格者数は減り、その分厳しいに入試になっています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、各回次とも難化した入試でした。

大妻中野はアドバンスト、グローバルリーダーズの2コース制です。今年は2月2日午後の算数1科目入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は一昨年の増加、昨年、今年と少しずつ減っています。実際の受験者数は減少、合格者も減らしています。合格最低点は1日午前のアドバンスト1回が上昇、出題内容との関係はありますが、少し難化したかもしれません。2日午後のアドバンスト3回と、3日午前のアドバンスト4回の4科は少し下がっています。3回は少し入りやすくなったかもしれませんが、4回は得点分布の影響で、難度に変化はなさそうです。1日午後のアドバンスト2回は昨年並みです。グローバル各回や、新思考力など公表されていない入試は昨年並みの難度でしょう。品川女子学院の各回次合計の応募者数は、一昨年は前年に2月1日午後の算数入試を新設して大きく増えた反動で減少、昨年は増えていて、今年はやや減りました。実際の受験者数もやや減りましたが、合格者数は若干増えています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化は見られません。

田園調布学園は曜日の関係で帰国入試日程を変更しています。昨年は初めての午後入試を算数1教科で新設、各回次合計の応募者数は大きく増えましたが、今年は昨年の反動が出たようで減っています。実際の受験者数、合格者数も減りました。合格最低点は2月1日午前と4日午前の3回は昨年並みで、難度に変化はなさそうですが、1日午後の算数入試と2日午前の2回は少し下がっていて、やや入りやすくなったのかもしれませんが。三輪田学園の各回次合計の応募者数は、一昨年は前年の大幅増加の反動で減少、昨年は増加、今年は昨年並みです。実際の受験者数はやや減っていて、合格者数は昨年並みです。合格最低点は2日午前の2回が少し上がり、3日午前の3回は少し下がり、他の回次は昨年並みですが、上下も出題内容の影響が強いようで、難度自体はあまり変わっていないようです。

跡見学園は一昨年までIクラス・Pクラスの2コース制でしたが、昨年から特待入試・一般入試に再編成しています。各回次合計の応募者数は一時期低迷しましたが、2018年以降増加が続き、今年も少し増えています。合格最低点は2月4日午前の思考力入試と英語コミュニケーションスキル入試が昨年並みでしたが、

それ以外は上がり、やや難化したかもしれません。

恵泉女学園はプロテスタント校で、昨年は日曜日に重なったため午後に移した2月2日の入試を今年は午前に戻しました。各回次合計の応募者数は、一昨年が前年並み、昨年は大きく増えて、今年は減りました。2日の2回が午前になって同校を志望校から外した受験生は1日午後の1回や3日午後の3回も選択から外したようです。このように応募者は減りましたが、一昨年よりは多い応募者数ですから人気は一昨年よりも上がっていることとなります。実際の受験者数も減りましたが、合格者数はほとんど昨年と変わっていません。このように書くと入りやすくなったのではと感ずるかもしれませんが合格最低点は1・3回が昨年並み、2回は上昇しています。出題内容との関係もありますが、難化の可能性もあり、そうすると応募者の減少は「受験生が絞られた結果」ということとなります。

女子聖学院もプロテスタント校ですが、昨年は日曜日でも入試は動かしませんでした。各回次合計の応募者数は昨年まで少しずつ減っていて、今年も同様です。実際の受験者数も少し減っていて、合格者数も若干減りました。合格最低点は2月1日午前の1回が少し下がっています。他の回次は昨年並みでした。出題内容との関係はありますが、1回は第一志望の応募者が多いことから、少し入りやすくなったのかもしれませんが。他の回次は昨年並みの難度でしょう。玉川聖学院もプロテスタント校で、昨年は曜日の関係で2月2日の入試を3日に変更しましたが、今年は2日に戻し、4日の入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は隔年で増減が見られ、今年は順番通り減りましたが、減少幅は小幅です。しかし、実際の受験者数は欠席が減って増加、少し傾向が変わってきました。合格者数は昨年と同様で、一部しか合格最低点が公表されていませんが、2月1日午前の1回は上がっています。出題内容との関係はありますから、難度面は昨年とあまり変わっていないのではないと思われます。

附属カラーが強い日大豊山女子は2月2日午後にプレゼンテーション入試を新設しました。各回次合計の応募者数は、一昨年が前年並みでしたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は逆に絞っていて、適性検査型の合格最低点は昨年並みだったものの、他の回次は昨年より上がっています。出題内容との関係はありますが、適性検査型は昨年並みの難度、それ以外は各回次とも少し難化しているようです。

昭和女子大附属は従来中3からの選択だったスーパーサイエンスクラスを、入学時点からの編成に変更、スーパーサイエンス、グローバル、本科の3コース制になりました。各回次合計の応募者数は一昨年が増加、昨年は倍増の大幅増、今年も増えています。昨年の倍増は、一昨年夏にアメリカのテンプル大学ジャパンキャンパスが港区から昭和女子大学の敷地内に移転、昭和女子大学だけでなく、中高とも様々な連携の取り組みが行われることになり、実践的なグローバル対応教育が日常的に実施できることが受験生に支持されたため、今年も人気は続いています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は逆に絞っていて厳しい入試になっています。合格最低点は2月1日午前のA入試のグローバルコースが昨年並みだったものの、それ以外はすべて上昇し、今年も難化しました。新設のスーパーサイエンスコースは、グローバルコース並みの合格最低点でした。女子美術大付属は各回次合計の応募者数の増加が続いて、今年は大きく増えて人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年と同数で、合格最低点は各回次とも上昇、難化した入試になりました。

麴町学園女子は昨年度からダブルディプロマ(同校と海外の高校の2つの高校卒業資格が同時に取れるプログラム)を実施しています。今年は未来型(適性検査型)入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増加が続きましたが今年は減っていて、人気が一段落しています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は増えています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、少し入りやすくなったようです。トキワ松学園の各回次合計の応募者数は、一昨年は減少していましたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は2月1日午前の1回と1日午後の2回の一般合格が少し上がっていますが、得点分布の関係で難度面は変化がなかったようです。

文京学院大女子は適性検査型入試と思考力プレゼン入試を新設、独特の文京方式入試をポテンシャル入試に改称するなどの変更がありました。一昨年は各回次合計の応募者数が少し増えていましたが、昨年は減っていて、今年も昨年並みでした。実際の受験者数、合格者数は、厳密には若干減っていますが昨年並みと言ってよいでしょう。合格最低点は一部上下している回次も見られますが、概ね昨年並みで難度は変わっていないようです。和洋九段女子は、グローバルコースと

本科コースの2コース制です。今年は2月2日午前の入試を取りやめ、5日午前に入試を新設しました。各回次合計の応募者数は一昨年まで減っていましたが、昨年、今年と増加が続き、今年は特に増えています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点の一部に変化が見られますが、各回次の難度はあまり変わっていないようです。

京華女子は英検利用入試の科目を変更しました。各回次合計の応募者数はほぼ同じ水準が続いていましたが、今年は増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は2月2日午後が上昇、他の回次は昨年並みでした。不合格者はあまり多くないことから、2日午後の上昇は得点分布の影響でしょう。各回次とも難度は昨年並みのようです。東京家政大附属は国際バカロレアの中等教育プログラム(MYP)の実施校で、Eクラスとiクラスの2コース制で、今年は初めて帰国生入試を別日程で実施、2月1日午前のiクラスの科目選択の幅を拡大しました。各回次合計の応募者数は一昨年在り減りましたが、昨年は増加、今年は少し減って隔年的に変化しています。コロナ禍もあって、国際バカロレアの取り組みが受験生に浸透していないようです。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、難度面ではあまり変化がなかったようです。

校成学園女子は2月5日と7日に入試を新設しました。昨年は適性検査型を都立中高一貫校の出題パターン別に細分化したり、英語インタビューやデータリテラシーの入試を新設したりするなど大きく変更して、各回次合計の応募者数は大きく増えましたが、今年も大きく増えていて、一昨年の3倍になっています。実際の受験者数、合格者数も増えました。合格最低点は上下している回次も見られますが、出題内容の影響でしょう。難度面ではあまり変わっていないようです。中村は、曜日の関係での帰国生入試の日程変更やグローバル入試、ポテンシャル入試の日程を変更、2月2日午後に関算エクスプレス入試を新設しました。自己表現型の2科入試です。各回次合計の応募者数は2018年に減少して小規模な入試になりましたが、一昨年以降増加して小規模を脱し、今年は大きく増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、今年とは本稿執筆時点で合格最低点が公表されていませんが、少し難化したようです。

富士見丘は英語特別入試を英語資格入試に変更、曜日の関係で帰国生入試の日程も変更しました。一昨年まで小規模な入試が続いていましたが、昨年は応募者

が増加、小規模を脱しました。今年はやや減っていますが、合格最低点は未公表ですが、不合格者が少ないこともあって、各回次の難度はあまり変わっていないようです。神田女学園も小規模な入試の学校でしたが、語学を重視した学校改革に取り組んでいて、その一環で入試の変更も活発に行われました。こうした取り組みが受験生に評価され、各回次合計の応募者数は増加が続き、昨年は小規模を脱しました。今年は各回次合計で昨年並みの応募者数だったものの欠席が減って、実際の受験者数は増加しましたが、難度は変わっていないようです。

カトリックの目黒星美は2月3日の英語入試を2日に変更しています。昨年は各回次合計の応募者数が一昨年並みだったものの、毎年少しずつ減っていて、今年も減って小規模な入試になりました。この数年間、少々応募者が減っても実際の受験者数はあまり変わらず、志望順位が高い応募者中心の入試に変わってきましたが、今年は実際の受験者数、合格者数も減っています。不合格者が少ないので、難度はあまり変わっていないようです。同校は2023年度入試から共学化、校名変更の予定です。聖心女子は中学での募集を帰国生のみとしていることもあって、今年も小規模な入試でした。応募者はやや減っています。東京女子学園は小規模な入試の学校で、今年2科や4科の入試を全面的に1教科入試に切り替え、スマートフォン持ち込みによる情報収集型の入試を拡大しました。各回次合計の応募者は少し増えていますが、今年も小規模入試で難度も昨年並みだったようです。

国本女子は、昨年カナダの高校卒業資格も取れるダブルディプロマコースを新設、在来コースはリベラルアーツコースとした2コース制になりました。今年は一部入試日程や選択科目の変更がありましたが、今年も小規模な入試でした。東京女子学院は小規模な入試の学校です。今年帰国生入試を新設、2月3日午後に入試を取りやめるなどの変更がありましたが、やはり今年も小規模でした。東京家政学院も小規模な入試の学校で、今年新タイプのSDGs入試を新設したり、科目選択の幅を広げたりするなどの入試の変更があり、応募者数も増えましたが、やはり小規模でした。聖ドミニコ学園は2月4日の入試を取りやめて3日午後作文の入試を新設するなどの変更がありましたが、今年も小規模な入試で、各校とも難度に変化は見られませんでした。

川村は適性検査型入試を取りやめ、北豊島は一部の

入試で科目の変更がありました。愛国は特に入試に変更はなく、瀧野川女子学園は応募者数だけしか公表されていませんが、これらの4校とも小規模な入試でした。成女学園と星美学園は本稿執筆時点で入試結果未公表です。星美学園は2022年度から共学化し、校名を「サレジアン国際学園中学高等学校」に変更する予定です。大きく変わることでしょう。

4. 男女校

<難関校～中上位校>

男女校では、新たにスタートした広尾学園小石川と芝浦工大附属が大きな話題で、両校とも厳しい入試になったため、「難関校～中上位校」に分類した方がよいという印象を持たれる方もいると思いますが、本稿では受験校決定段階での想定難度を基準に、次の「中上位校～中堅前後の各校」で紹介します。

国立の筑波大附属は、一昨年まで応募者数の増加が続き、昨年は一昨年並みでしたが、今年は再び増加、特に男子が大きく増えました。理由は長い間実技科目を含む入試だったのが、今回から4教科入試に変更されたためです。実技科目に自信がなくて、同校を断念していた受験生が今まで多かったことがわかります。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年と同数で、出題内容との関係はありますが、男子は確実に難化、女子も少し難化したようです。

東京学芸大世田谷の応募者数は、一昨年は女子が増加、男子もやや増えていて、昨年は男女とも減りました。今年は男子が減少、女子もやや減っています。実際の受験者数でも男子は減りましたが、女子は昨年並みでした。合格者数は男女で増減が異なりますが、補欠を出していることから、男女とも難度は変わっていないようです。東京学芸大竹早は、一昨年は男子の応募者数が減少、女子は増えていて、昨年は男子が増加、女子は一昨年並み、今年は男子が昨年並み、女子は減りました。しかし実際の受験者数は男女とも昨年並みで、女子は欠席が減っています。合格最低点は公表されていませんが、合格者数は男女とも昨年並みで補欠も出していますから、難度は昨年並みでしょう。

お茶の水女子大附属は共学ですが、男子よりも女子の受験生が大多数です。今年から4教科の入試を、教科横断型の検査Ⅰ～検査Ⅲに変更しました。適性検査とは呼ばず、入学検定と言いますが、適性検査タイプに変更になっています。一昨年、昨年と女子の応募者が減っていて、男子はほぼ同水準が続いていました。

女子は今年も減っていますか、今年は男子も減っています。今年の減少は入試の出題形式の大幅変更が理由で、不慣れな出題形式も予想されたことから、敬遠ムードが起きています。本稿執筆時点で検査問題がまだ公表されておらず、合格最低点はもともと公表されませんから、はっきりしたことは言えませんが、難度面では少し入りやすくなったかもしれません。

双子の研究教育で知られる東大附属は、推薦入試で書類選考を実施し、書類選考の合格者が面接や適性検査を受検する方式に変更しました。新型コロナウイルス感染症対策で、受検者数を抑制するための措置です。一昨年は男子の応募者が推薦・一般とも増加、女子もやや増えていて、昨年は推薦が男女とも増加、一般も女子は増加、男子は一昨年並みでしたが、今年は推薦・一般男女とも減りました。女子の方が大きく減っています。女子は昨年、一般の応募者が増えましたからその反動でしょう。推薦の応募者は男女とも書類選考を嫌ったための減少だと思われます。合格最低点は公表されていませんが、推薦は高倍率ですから難度に変化はなさそうです。一般は少し入りやすくなったのかもしれませんが。東京学芸大国際は昨年まで応募者数に隔年現象が見られた学校で、今年は順番通り、英語中心のA方式は増加、国内生向けのB方式も少し増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みです。検査問題が独特ですので、難度面はあまり変わっていないようです。

私立では、慶應義塾中等部の応募者数は、以前は男女で傾向が違う年もありましたが、一昨年は男女とも前年並み、昨年は減少、今年は増加と、同じ傾向を示すようになってきました。合格最低点は例年公表されませんが、1次合格者に2次を行う2段階選抜で、補欠も出ていることから、今年も昨年とあまり変わらない高難度だったようです。渋谷教育学園渋谷は、各回次合計の応募者数が一昨年前年並み、昨年はやや減りましたが、今年は少し増えています。2月2日の2回、5日の3回の男子の増加が目立っていて、2回の女子は減っています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、合格最低点は1日の1回と2回は昨年並みで難度に目立った動きはありませんが、3回は男女とも上がっていて、難化した入試でした。

青山学院はプロテスタント校で、昨年は例年の入試日程の2月2日が日曜日になったため、3日に入試を移しましたが、今年は2日に戻しました。一昨年、男女ともに応募者数が増加しましたが、昨年は3日に移

って男子は併願受験生が増加、今年は減っています。女子は一昨年、昨年、今年とほぼ同じ応募者数が続いています。男子は実際の受験者数が減っていますが女子は増えていて、昨年は1日に他校を受験し、その結果がわかって3日の青山学院を欠席していた受験生が、今年は2日のため、しっかり受験したわけです。男女とも合格者数は昨年並みで、男子の合格最低点は少し下がって、やや入りやすくなったかもしれません。女子は昨年並みで、難度は変わっていないようです。

広尾学園は医進サイエンス、インターナショナルA G、同SG、本科のコース制です。一昨年は各回次合計の応募者数が前年並み、昨年は減りました。人気が上がって難化が進んだからです。今年は後述の姉妹校、広尾学園小石川がスタートすることで受験生が分散し、応募者数が減って入りやすくなることを期待した受験生も多かったはずですが、回次ごとで増減が見られるものの、応募者総数は減らず、やや増える結果になりました。同校に期待する受験生の多さを示していますが、小石川との併願者も多かったようです。実際の受験者数は昨年並み、合格者数は昨年より絞っています。2月2日午後の医進サイエンス入試は合格最低点下がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次は昨年並みで、今年も高難度でした。

國學院久我山は男女別学です。各回次合計の応募者数は、一昨年は減少しましたが、昨年は増加、今年は減少と隔年的に変動しています。回次ごとに傾向は違っていて、ST選抜は2月1日午後の1回で女子が、3日午後の2回と5日午前の3回は男子が減っていて、一般入試は1日午前の1回が女子、2日午前の2回は男女とも減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていて、合格最低点は一般1・2回が昨年並みでしたが、ST各回は上がっています。出題内容との関係ですが、少し難化したかもしれません。

東京農大第一は2月1日午後の1回を2科4科選択から2日午後の2回と同様の2科と算理の選択に変更しました。受験しやすくするための配慮です。各回次合計の応募者数は一昨年、減少していましたが、昨年、今年と増加が続いています。1回の増加が目立ちますが、2回や4日の3回も増えています。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格者数は少し増えた程度でした。合格最低点は2回の国算選択で上昇が目立つなど、一部変動がありますが、出題内容の影響が強いようです。難度面は昨年並みで、むしろボーダーライン付近が厳しい入試になったようです。

淑徳は東大セレクトとスーパー特進の2コース募集です。今年は2月1日午後、2日午後、3日午後の2科4科選択入試をすべて2科とし、3日午後の英語資格入試を取りやめるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年在りや増えて、昨年は増えていましたが、今年は減っています。今年の入試の変更は、コロナ禍もあって受験生に負担にならないように、との配慮でしょうが、4科入試が1日午前だけになったことに、特に進学校志向の併願受験生の中には違和感をもったケースもあったのかもしれません。実際の受験者数も減っていますが合格者数は昨年並みで、本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、スーパー特選は少し入りやすくなったかもしれません。東大セレクトは昨年並みの難度でしょう。

東京都市大等々力は一昨年、入りやすいコースだった特進の募集を停止、現在はS特選と特選の2コース募集です。各回次合計の応募者数は、一昨年は入りやすいコースを募集停止したにもかかわらず増加していましたが、昨年は入試回数を減らして減少、今年も減っています。難化が進みすぎて敬遠ムードが起きたようです。実際の受験者数、合格者数も減っていて、合格最低点は2月3日午後のS特チャレンジが下がっていますが、出題内容の影響でしょう。他の回次は昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。

開智日本橋はGLC、DLC、LCの3コース制で、国際バカロレアの教育を実践しています。2015年の共学化、校名変以降高い人気が続いています。応募者数の増加が続いていましたが、昨年は難化が進んで敬遠ムードが出たようで、帰国生入試と適性検査型以外の回次は少し減りました。今年は高度な英語力を求める入試回次を整理統合する代わりに2月4日に国算2教科入試を追加しています。今年は再び各回次合計の応募者数は増加しましたが、2教科が追加された4日より1日午前の増加が目立っていて、志望順位が高い受験生が増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、昨年は合格最低点が公表されていないため、比較はできませんが、やや難化したかもしれません。

三田国際学園はメディカルサイエンステクノロジー(MST)、インター、本科の3コース制です。各回次合計の応募者数は、一昨年在りや減、昨年は一昨年並み、今年少し減っています。もともと2015年に戸坂が共学化、校名変更で大人気になった学校で、難化が続いていましたので、少し敬遠ムードが出てきまし

た。実際の受験者数は減っていますが、合格者数は増やしています。本稿執筆時点で合格最低点はまだ公表されていませんが、難化が進んできましたので、全体の実質倍率は少し緩和していますが、各コースとも入りやすくなったわけではなさそうです。

＜中上位校～中堅前後の各校＞

まず話題の2校から。広尾学園小石川は、商業色が強かった村田女子高校が、広尾学園と教育連携を実施し、2021年度から共学化、校名変更でスタートする学校です。村田女子としても中学校を併設していましたが、2016年に募集停止、休校になっています。今回、形式上は村田女子中学校が共学化して再開する形ですが、実質的には全くの新設校で、高校も含め、村田女子の教育カリキュラム等は引き継がれません。広尾学園と同等、同質の教育内容が看板で、キャパシティの関係で医進サイエンスは設置されませんが、インターナショナルAG、同SG、本科の3つの課程が設置されます。帰国生入試のほか、一般入試は2月1日午前、1日午後、2日午後、3日午後、4日午後の5回が設定され、1日前が4科、他は2科です。各回次合計で3,800名の応募者があり、大人気になりました。

現在の広尾学園は、2教科受験ができなくなっていますが、小石川は可能なことから、地理的には広尾学園の方が近くても、小石川を受験したケースもありました。実際の受験者数は2,200名あまり、合格者も500名を超えています。入試問題は広尾学園とは別ですが、同校では同レベルを目指すとしていました。しかし、やはり初年度ということもあって、広尾学園より少し入りやすい難度だったようです。

芝浦工大附属は2017年に板橋から豊洲に移転した学校で人気が続いていましたが、男子校から共学化しました。同時に2月2日午後には算数+英語と算数+言語技術の選択入試を新設しました。言語技術は読解力や表現力などの、一般に国語力と言われる力を技術として捉えるもので、同校だけでなく神奈川県森村学園や千葉県麗澤などでは授業で実践されているものです。また、従来からの1日午前の1回、2日午前の2回、4日午前の3回は国算理という首都圏では珍しい関西型の入試が行われています。ただ、昨年までの2月6日の第一志望入試は取りやめになりました。これはそれまでの入試回次で一定点数以上の不合格者を対象に、事前課題や作文・面接の独特の方式で行っていたものです。

昨年の各回次合計の応募者数は、取りやめになった第一志望入試を含めて計算しても、今年は増加しています。従来からの帰国生入試と1回、3回は、いずれも男子だけでも昨年並みの応募者数、2回は増加しています。共学化で女子の受験生が出る分、男子の門は狭くなると言われていましたが、それでも多くの男子受験生が挑戦しました。女子は各回次とも男子の約2割の応募者数でした。実際の受験者数は増加、合格種数はほぼ昨年並みで実質倍率は上がっています。合格最低点は昨年並みでした。出題内容との関係はありますが、ボーダーライン付近がかなり厳しくなった入試だったようです。

他の学校は、比較的內部進学率が高い大学系の学校から見ていきます。成城学園の応募者数は、一昨年は2月1・3日の1・2回の男女とも大きく増加、昨年は合計でやや減っていて、今年は2回が増えたことから合計も少し増えています。実際の受験者数も少し増えましたが合格者数はやや絞っています。合格最低点は1・2回男女でやや変化していますが、出題内容との関係でしょう。難度は昨年並みだったようです。

日大系列校の中では比較的進学校カラーが強い日大第二は、一昨年は各回次合計の応募者数が減りましたが、昨年は増加、今年も少し増えています。実際の受験者数は増加していますが、合格者数は若干減らしています。合格最低点は2月1日の1回の女子が上がっていて、男子と2回の男女は昨年並みです。出題内容との関係はありますが、1回の男子と2回は昨年並みの難度、1回の女子が少し難化した結果だったようです。日大第一は日大第二より附属カラーが強い学校です。各回次合計の応募者数は一昨年以降今年も増加が続いて人気が上がっています。昨年は女子の増加が目立ちましたが、今年は男女とも増えています。実際の受験者数も増えていて、合格者数も増えていますが、こちらは少し増えた程度です。2月1日午前の4科1回は合格最低点が上昇、出題内容の影響はありますが、少し難化したかもしれません。2日午前の4科2回と5日午前の2科2回は昨年並み、3日午前の2科1回はやや下がっていますが、これらは昨年並みの難度でしょう。

目黒日大は一昨年、日出が日大の準付属校になって校名を改称した学校です。日出のときは入りやすい小規模な入試の学校でしたが、各回次合計の応募者数は一昨年前年の5倍近い人数に増加、昨年、今年と増

加が続いて人気はさらに上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、合格最低点は2月1日午前の4科が下がり、適性検査型は上昇、2日午前の適性検査型も上昇していますが、それ以外は昨年並みです。出題内容の影響はありますが、難度自体はあまり変わっておらず、ボーダーライン付近が厳しくなった入試だったようです。東海大高輪台は、各回次合計の応募者数が一昨年から増加が続いています。人気の上がっていて、特に男子の増加が目立っています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで実質倍率は上がっています。合格最低点は2月1日の1回が少し下がり、3日の2回は上がって、5日の3回は昨年並みでした。変動は出題内容が影響しますが、2回はやや難化したかもしれません。1・3回は、あまり難度は変化していないようです。

次に附属ではない学校や附属カラーの薄い学校を見ていきます。青稜は2月1日午前の1回Aに4科選択を追加したほか、3日に国算のタブレット入試を新設しました。これは、紙の問題用紙、解答用紙に代わってタブレットに問題が表示され、解答もタブレットに入力するものです。各回次合計の応募者数は一昨年大きく増加、昨年は減少、今年は増加と隔年的に変化しています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は帰国生入試が昨年並み、1回A、1日午後の1回B、2日午後の2回Bは上がっています。2日午前の2回Aは2科が少し下がりました。出題内容の関係でしょう。全体的には少し難化したかもしれません。タブレット入試は200点満点で104点が合格ラインですが、方式が全く異なることから、他の回次と単純比較はできません。

東洋大京北の各回次合計の応募者数は、一昨年が大幅増加、昨年も若干増えていましたが、今年は減っていて、男子の減少が目立ちます。もともと同校は入りやすい男子校で2015年から現在のような学校になりましたが、難化が進んで、敬遠されるようになったのかもしれません。合格最低点は2月1日午後の2回が上がり、2日午前の3回が少し下がっていますが、出題内容の影響が大きいようです。他の回次は昨年並みなので、難度はあまり変わっていないようです。グローバル対応の教育で知られるかえつ有明は、曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しています。各回次合計の応募者数は一昨年は減っていましたが、昨年、今年と増加が続いています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数はわずかしこ増やしていません。本稿

執筆時点では合格最低点が公表されていませんが、特待入試は昨年並みの難度、それ以外は各回次とも少し難化したかもしれません。

宝仙学園理数インターは自己アピール型やアクティブラーニング型の入試が多く、今年はおピニオン入試を新設しました。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と減っていましたが、今年は増加しています。実際の受験者数も増えましたが、合格者数の増加は小幅です。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難度が測りやすい教科型や適性検査型の入試はやや難化したかもしれません。順天は隔年現象が見られる学校で、一昨年は各回次合計の応募者数が減少、昨年は増加、今年は順番通り減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、合格最低点は2月1日午前・午後が上昇、2日午前と4日午後の多面的入試が昨年並み、12月の帰国生入試と2日午後は下がっています。出題内容の影響が強いようで、難度面はあまり変わっていないようです。

駒込は国際先進と本科(AGS)の2コース制でしたが、今年から国際先進に一本化しました。入試の設定も2月1日午後の入試で4科と2科+英語の選択を取りやめ、2日午前には4科選択を追加、2日午後は算数1科の特待入試に変更、2日午後だったプログラミング入試や自己表現入試を4日に移すなど、大きく変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年から増加が続いていて、今年も大きく増えています。基準点をクリアすれば合格する方式ですが、国際先進も少し難化したかもしれません。品川翔英は昨年共学化し、校名を変更した学校です。小規模な入試の女子校でしたが、共学化で各回次合計の応募者数は大きく増加、一昨年の5倍を上回りました。今年は2月2日午後の2科入試をグループワーク入試とプログラミング入試に切り替え、3日午後に自己PR入試と英語インタビュー入試を、4日午前に算数1教科入試を新設、4日午後の入試は5日午前に移して2科から2科4科選択に切り替えました。こうした効果もあって、今年はさらに応募者が増加、昨年の2.5倍になっています。共学化初年度の昨年も女子よりも男子の応募者が多くなりましたが、今年も同傾向で、男女比はおよそ6:4になっています。合格最低点は概ね昨年並みですが、出題は難化していることから、難度も少し上がったようです。

文教大付属は、各回次合計の応募者数が一昨年は増加、昨年もやや増えていましたが、今年は少し減っています。実際の受験者数も少し減りましたが、合格者

数も減らしています。合格最低点は4科入試が回次や男女で上下いろいろな動きが見られますが、出題内容の影響でしょう。難度面はあまり変わっていないようです。安田学園は、先進特待と総合(一般)の2コース制です。今年は2月4日の4科と国算英の入試を3日に移しました。各回次合計の応募者数は一昨年が前年並み、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格最低点は、やや上がった回次もあるものの、各回次とも概ね昨年並みです。出題内容との関係もありますが、難度面ではあまり変わらず、ボーダーライン付近が厳しくなった入試だったようです。

淑徳巣鴨はスーパー選抜と特進の2コース制で、各回次合計の応募者数は一昨年、昨年、今年と増加が続く、人気が上がっています。今年は女子の増加が男子を上回っています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は逆に絞っていて、昨年より倍率が上がっています。合格最低点は各回次とも上がっていますが、特に2月2日午後の上昇が目立ちます。出題内容との関係はありますが、少し難化しています。多摩大目黒は特待特進と進学の2コース制です。一昨年まで各回次合計の応募者数の増加が続いていましたが、昨年は減少、今年大きく増えました。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は少し絞っています。合格最低点は未公表ですが、少し難化したかもしれません。

立正大立正は適性検査型入試を2月2日午前から1日午前に移しました。各回次合計の応募者数は一昨年以降増えていて、今年も増えて人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も少し増えていて、合格最低点は各回次・科目・男女で上下いろいろ見られます。もともと不合格者があまり多くないことから、難度は昨年並みだったようです。八雲学園は2018年に女子校から共学化した学校で、2018年は各回次合計の応募者数が大幅に増加、一昨年やや増えましたが、昨年は一昨年並み、今年は減って、共学化人気が一段落しました。実際の受験者数、合格者数も減っています。合格最低点は各回次とも概ね昨年並みで、難度は安定しています。

文化学園大杉並は日本とカナダ両方の高校卒業資格を取得できる「ダブルディプロマコース」を首都圏で最初に開始した学校で、2018年に女子校から共学化しました。曜日の関係で帰国生入試の日程を変更、科目選択も見直していて、一般入試では2月6日に特別入試を2科と自己表現(算数+プレゼン)に変更しまし

た。2018年は共学化で各回次合計の応募者数が大きく増えて、一昨年、昨年と増加が続きました。今年は昨年並みで人気が一段落したようです。実際の受験者数は少し減っていて、合格者数も減っています。合格最低点は細かい上下が見られますが、出題内容の影響で、難度はあまり変わっていないようです。

城西大附属城西は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、2月2日午後に英語入試を新設、7日の3回に4科入試を追加するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と増えていましたが、今年は少し減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、合格最低点は上下が目立つ回次も見られます。得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないと思われます。郁文館は曜日の関係で帰国入試と特別編成入試の日程を変更したほか、他の入試設定も一部変更しています。特進、GL特進、進学の3コース制でしたが、今年から全員特別奨学の最上位クラスとしてiP選抜を追加、4コース制になりました。各回次合計の応募者数は、一昨年はやや減っていましたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数ね合格者数は増えています。本稿執筆時点では合格最低点が公表されていませんが、新設のiP選抜は昨年の特奨合格並みの難度だったようで、他のコースも昨年とあまり変わっていないようです。

東京成徳大は2月1日午後の思考力入試を適性検査型に変更しました。一昨年は各回次合計の応募者数が少し減っていて、昨年も減っていますが、今年は少し増えて減少に歯止めがかかりました。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は一部上下が目立つものもありますが、得点分布の影響が強く、難度面はあまり変わっていないようです。帝京大帝京は、各回次合計の応募者数が一昨年、昨年と少し増えていましたが、今年は減りました。実際の受験者数、合格者数も減っています。合格最低点はやや上下している回次もありますが、概ね昨年並みで、難度面はあまり変わっていないようです。

桜丘は曜日の関係で帰国生入試の日程が変更になっています。各回次合計の応募者数は昨年まで増加が続いていましたが、今年は特に増加して人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格は基準点方式で昨年と変わっていませんから、難度に変化は見られません。目白研心は帰国生入試を前倒しにしたほか、2月2日に適性検査型入試の増設、

3日午前には算数特別入試を新設、4日午前入試は3日午後に移動、科目選択を変更した回次もありました。各回次合計の応募者数は、一昨年が前年並み、昨年はやや増加、今年は入試設定を大きく変更した成果でまともな増えました。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、もともと不合格者が少ないこともあって、難度に変化は見られません。

共栄学園は特進、進学の2コース制です。今年は2月1日の午後入試を取りやめ、昨年実施した国語または算数の選択でリスニングやプレゼンを含んだ4技能入試も実施していません。各回次合計の応募者数は一昨年少減、昨年は増加、今年は減少と隔年的な変化ですが、実際の受験者数、合格者数は昨年並みで欠席が減っています。合格最低点は上下いろいろな動きが見られますが、得点分布の影響が強く、難度はあまり変わっていないようです。実践学園も曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しています。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と増えていましたが今年は減っています。実際の受験者数、合格者数も少し減っていますが、合格最低点は昨年並みで、難度に変化は見られません。

日本工業大駒場は得意科目型など、多彩な科目選択の学校で、今年は2月1日午前、2日午前で科目選択の幅を増やし、3日午前と5日午前には4科入試を新設するなどの変更がありました。もともと工業高校の併設中学校としてスタートしましたが、進学校化を進めていて、いよいよ2021年度から高校の工業科(創造工学、理数工学)が募集停止になることで人気が上がっており、昨年まで各回次合計の応募者数は増加が続き、今年は昨年並みです。ただ、実際の受験者数は少し減っていて、合格者数が昨年並みでした。科目選択が多い分出題内容の影響から合格最低点は上下が目立つ回次もありますが、不合格者数があまり多くないことから、難度面はあまり変化していません。

上野学園はアドヴァンストとプログレスの2コース制で大学受験体制に結びつくコース制ですが、音楽専攻も選択できる学校です。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と増加が続き、今年も増えています。増加の中心は2月1日午前入試の適性検査型の併願受験生です。入試の種類が多く、一つ一つの入試は小規模なものもあるため、合格最低点は上下が見られる回次もありますが、実際の受験者数の増加に応じて合格者数も増やしていますから、難度面はあまり変わっていない

ようです。成立学園は2月1日午前と4日午前実施していたナショジオ(ナショナルジオグラフィック)入試を4日午前にまとめました。昨年まで各回次合計の応募者数が200名に満たない小規模な入試でしたが、今年は応募者が増加して小規模を脱しました。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は回次によって上下いろいろありますが、もともと不合格者数が少ないことから難度に変化はなかったようです。

駿台学園は特選・総合の2コース制です。今年は2月1日～3日午後の1教科入試を2教科実施して合否判定に用いるのは高得点1教科とするように変更、適性検査型は視聴型出題+作文に変更し、プレゼン入試や英語コミュニケーション入試を複数の日程で設定するなどの変更があります。小規模な入試だった年もある学校ですが、一昨年、昨年は小規模を脱した応募者数だったものの、今年は減って再び小規模になりました。入試の変更が大きいのに公表が遅く、受験生に浸透しなかったようです。難度も特に変化していません。国士館も小規模な入試から2018年、一昨年と応募者の増加が続き、小規模を脱しました。しかし、昨年と今年は減って再び小規模になっています。同校も難度に変化は見られません。

東京立正、新渡戸文化、武蔵野、修徳、目黒学院、貞静学園も小規模な入試の学校です。東京立正は2月1日午後入試科目を変更、5日午前入試を4日午前に移して自由研究SDGs入試を実施、13日にも入試を新設するなどの変更がありましたが、今年も小規模な入試でした。新渡戸文化は2月2日午後と11日午後スピーチ主体の好きなこと入試を新設、1日午前4科入試を適性検査型とするなどの変更がありました。今年も応募者が増えましたが、やはり小規模でした。武蔵野は昨年2月3日の入試を2日に動かすなどの変更がありましたが、今年も小規模でした。修徳は2月2日午前2科入試を追加しました。各回次合計の応募者数は増えていますが、同校の今年も小規模でした。目黒学院も、日程ごとの入試科目に一部変更がありましたが小規模で、貞静学園も今年も応募者が少し増えましたが、やはり小規模な入試でした。これらの各校は難度に変化は見られません。

なお、東邦音大東邦と高校を併設していない清明学園は本稿執筆段階では入試結果未公表でした。また、松蔭は募集を停止しています。

● 東京23区 難易度別グルーピング ●

2 ページのグラフは、各校の代表的な今春の入試に向けての直前予測における難易度(今春の受験生が志望校決定の参考にしたと思われる難易度、結果偏差値ではありません)をもとに、東京23区私国立中を次のようにグルーピングして作成しました。公立一貫校は合否分布の幅が広いので、ここでは外しています。また、特待入試等では特待生合格を前提とした難易度です。なお、このグルーピングは学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…麻布・海城・開成・駒場東邦・筑波大駒場・武蔵・早稲田・早大学院・桜蔭・鷗友学園・女子学院・白百合学園
 ・豊島岡女子・雙葉・慶應義塾中等部・渋谷教育学園渋谷・筑波大附属・広尾学園(医進サイエンス・インター)
- B…学習院・暁星・攻玉社・芝・城北・巣鴨・成城・世田谷学園・高輪・東京都市大附属・本郷・明大中野・立教池袋
 ・大妻・学習院女子・共立女子・香蘭女学校・品川女子学院・頌栄女子学院・東京女学館・東洋英和・富士見
 ・普連土学園・立教女学院・青山学院・お茶の水女子大附属(女子)・開智日本橋(G L C ・ D L C ・特待)
 ・國學院久我山(男女 S T)・淑徳(東大)・東京学芸大国際・東京学芸大世田谷・東京都市大等々力・東京農大第一
 ・広尾学園(本科)・三田国際学園
- C…足立学園(特奨)・佼成学園(特奨)・芝浦工大附属・獨協・跡見学園(特待)・江戸川女子・大妻中野・恵泉女学園
 ・光塩女子学院・昭和女子大附属(S・G)・聖心女子(帰国のみ)・田園調布学園・山脇学園
 ・お茶の水女子大附属(男子)・開智日本橋(L C)・かえつ有明・國學院久我山(男女一般)・淑徳(スーパー特進)・順天
 ・成城学園・青稜・東京学芸大竹早・東大附属・東洋大京北・日大第二・広尾学園小石川・宝仙学園理数インター
 ・安田学園
- D…足立学園(一般)・京華(特選)・佼成学園(一般)・聖学院(特待アドバンス)・日大豊山・跡見学園(一般)
 ・京華女子(特待)・麴町学園女子(特待)・佼成学園女子(特奨)・実践女子学園・十文字・昭和女子大附属(本科)
 ・女子聖学院・女子美術大附属・玉川聖学院・東京家政大附属(特進 E)・トキワ松学園(特待)・中村(特待)
 ・日大豊山女子・三輪田学園・目黒星美・和洋九段女子(グローバル)・郁文館(i P 選抜・特進・G L)
 ・共栄学園(特待特進)・駒込・淑徳巣鴨・多摩大目黒(特待特進)・東海大高輪台・東京成徳大・日大第一
 ・文化学園大杉並・文教大附属・目黒日大・八雲学園・立正大立正(特待)
- E…京華(一般)・聖学院(一般)・日本学園・愛国・川村・神田女学園・北豊島・国本女子・京華女子(一般)
 ・麴町学園女子(一般)・佼成学園女子(一般)・淑徳 S C ・成女学園・聖ドミニコ学園・星美学園・瀧野川女子学園
 ・東京家政学院・東京家政大附属(進学 i)・東京女子学院・東京女子学園・トキワ松学園(一般)・中村(一般)
 ・富士見丘・文京学院大女子・和洋九段女子(本科)・郁文館(進学)・上野学園・共栄学園(進学)・国士舘・桜丘
 ・実践学園・品川翔英・修徳・城西大附属城西・駿台学園・清明学園・成立学園・多摩大目黒(進学)・帝京大帝京
 ・貞静学園・東京立正・東邦音大東邦・新渡戸文化・日本工業大駒場・武蔵野・目黒学院・目白研心
 ・立正大立正(一般)

MEMO